

ながはまの文化財

市内には、国や県、市が指定した文化財がキラ星のごとく光り輝いています。このコーナーでは、数ある文化財の中から代表的なものをシリーズで紹介いたします。

長浜市指定文化財

木造宝冠阿弥陀如来坐像(伝・聖観音)
竹蓮寺安置(西阿閉自治会蔵)

所有者：高月町西阿閉

指定日：平成5年5月1日指定

湖北地方は「観音の里」と呼ばれるほど、数多くの観音像が残されています。戦国時代、村人たちが観音像を戦禍から守ったというエピソードがあちこちの集落に伝わっています。

今回紹介する像も流転の歴史を刻んでいます。村の言い伝えでは、昔、大雨の際、余呉川の橋げたに仏像が引っかかっているのを村人が見つけ、拾いあげて安置し、観音さまとして大切に守ってきたといっています。

現在本像は、頭部に宝冠を戴き、右手は胸前で掌を内に向け、左手は腹前で蓮華を持ち結跏趺坐する、まさしく聖観音の像容をとっています。しかし、宝冠と額の間の地髪部には如来の特徴である螺髪がみられることや、身には衲衣を着していることから、本来この像は観音像ではなく、如来像として造られたことがわかります。



▲木造宝冠阿弥陀如来坐像

問

高月観音の里歴史民俗資料館
(☎85・2273)

ます。

宝冠を戴く如来には大日如来がありますが、本像の場合には宝冠の下に螺髪が確認されることから、密教系の特殊なホトケ「宝冠阿弥陀如来」と考えるのが自然でしょう。両手は近世の補修によって観音の手が取り付けられています。おそらく当初は膝の上で阿弥陀定印を結んでいたと思われる。

いずれかの時代に宝冠阿弥陀像が大きく傷み、観音信仰の盛んな土地であるため、「観音さま」として修理されたのでしょうか。像高85.3cm、ケヤキ材による一木造、製作は平安時代中期、10世紀末の頃と目され、湖北地方の仏教文化を考える上で貴重な像といえます。

市立病院通信(157)

お元気ですか

市立長浜病院

総合診療科

島本 綾子

「どの診療科に受診するのかわからないときは…」

体のあちこちが痛む、なかなか熱がさがらない、ダイエットをしていないのにどんどん体重が減る…、このようにどの診療科を受診した方がよいのか、迷う症状はありませんか。

目が充血している、皮膚にぶつぶつが出た、胸がどきどきする、などの症状で診療科がはっきりわかるものは良いのですが、前述のようにどこに原因があるのかわかりにくい病気があります。

心配だけど診療科がわからないため病院を受診できず、困りの方もおられるでしょう。総合診療科はそういった患者さんの窓口です。

受診に至るまでの経緯、症状を詳しくお聞きし、身体の診察・検査を経て、診断へと導いていきます。

診断が確定し総合診療科でも治療が可能なものは治療を開始

し、専門科が望ましいものであればその診療科へと紹介させていただきます。

すぐに診断までたどり着くこともあれば、診断まで時間がかかる場合もあります。

患者さんによっては病気として「診断名」がつかない時もあるでしょう。ただ、抱えていた不安感を少しは軽くできるかもしれません。

以前他院で総合内科医として従事していた際、症状が多彩で診療科が絞れず、意を決して受診された時には末期がん・多発転移となっていた患者さんがおられました。

受診科が分からないことで診断や治療が遅れ、患者さんの大事な時間が奪われたり生活に支障が出ることは望ましいことではありません。

症状が多彩で診療科が絞れない場合などは、総合診療科をご検討ください。

問

市立長浜病院
(☎68・2300(代表))